

4 検証授業Ⅰにおける検証

(1) 検証授業Ⅰの単元名及び実施学年等

単元名	ブックトークで本の世界を楽しもう(教材「白いぼうし」光村4年上 他)
実施学年	薩摩川内市立永利小学校 第4学年い組 男子17人 女子14人 計31人
実施時期	平成22年7月上旬

(2) 検証授業Ⅰのねらい

- ア 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る言語活動の在り方を検証する。
- イ 学習のねらいを効果的に達成する学習過程の在り方を検証する。
- ウ 子どもの習得と活用をつなぐワークシートの工夫について検証する。

(3) 検証授業Ⅰの概要(単元プランニングシート)

第4学年 単元名	ブックトークで本の世界を楽しもう	プランニングシート
1 領域, 指導事項		
領域	指導事項	
A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと ・伝統的な言語文化と国語の特質	ウ 文学的な文章の解釈 ・場面・人物の移り変わりに注意しながら, 登場人物の性格や気持ちの変化, 情景などについて, 叙述を基に想像して読むこと。 カ 目的に応じた読書 ・目的に応じて, いろいろな本や文章を選んで読むこと。	
2 身に付けさせる力と活用の型		
○これまでの学習で子どもが身に付けてきた力 ① 起承転結で場面を分け, クライマックスをとらえる力 ② 起承転結で場面を分け, クライマックスをとらえる力 ③ 起承転結で場面を分け, クライマックスをとらえる力 合う力		○活用の型 ア 読書生活への活用 イ 読書分析・解釈への活用 ウ 読書自己表現への活用
◎この単元で身に付けさせる力 ④ ファンタジー作品の構造を理解する力 ⑤ ファンタジー作品の構造を理解する力 ⑥ ファンタジー作品の構造を理解する力 表現の工夫を考える力 観点を絞って同ジャンルの作品を複数読み, 内容を比べ合う力		
3 設定した言語活動		
単元を貫く言語活動	グループ・ブックトーク	
◆特性		
複数の本の内容の一部を, 共通のテーマでつなげて紹介する。		
◆活動内容		
「不思議な世界への入り口と出口」「不思議な世界のあらまし」「読者を引きつける作者の工夫」という視点で作品を紹介し, 紹介し合う。		
◆留意点等		
・ファンタジーというジャンルの特徴を意識させながら作品全体をとらえさせる。 ・ファンタジーを成立させるための登場人物の設けや描写, 小道具の配置の効果を付けさせる。 ・子どもたちにとっては, ブックトークは初めての体験なので, 活動を容易にするためにグループによる発表形式をとらせる。		
これまで経験してきた関連する言語活動		
エ 紹介したい本を取り上げて説明すること ・紹介スピーチ ・紹介カード作り ・本の帯作り		
4 使用教材・教具, 選択した理由		
中核教材	白いぼうし	
本作品は, 松井さんというタクシー運転手の日常生活を舞台にしている。子どもたちに身近で親しみやすい印象を与える。また, 白いぼうしという小道具が現実と非現実を効果的につないでいるので, 子どもたちにとって, ファンタジーの作品構造をつかみやすいと考える。加えて, 女の子の正体がチョウなのではないかと思わせるような表現が随所にちりばめられ, 読者の想像を促す作者の表現の工夫を楽しみながら読むのに, 適した教材だと考える。		
補助教材	つり橋わたれ 自分で選んだファンタジー作品	
「つり橋わたれ」は物語の構造だけでなく, 話の展開や文章量など, 「白いぼうし」との共通点が多い。そこで, 「白いぼうし」と比べながら本作品を読ませることで, 物語の構造をつかんだり, 表現の工夫を考えたりする力をより確かなものにできると考える。また, ブックトーク用教材として, ファンタジー作品を40冊準備する。		
教具等	ワークシート ブックトーク用原稿	
作品構造をとらえたり, 観点に沿って作品を比較したことや, 観点を視覚的に分かりやすく整理するために, ワークシートを使用する。また, ブックトークで使用させるブックトーク用原稿を中核教材, 補助教材についても作成させることでブックトークを見通した学習が持続できるようにする。		

(4) 検証の実際

ア 基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る言語活動の在り方

「基礎的・基本的な知識・技能系統表」と「言語活動系統表」を基に設定した単元を貫く言語活動は、「ブックトーク」である。本単元で身に付けさせる知識・技能と、「ブックトーク」の特性の関連は図9のとおりである。

単元の導入で教師のブックトークのモデル演示をみてブックトークの特性に気付いた子どもたちは、単元を通して教材文の読みをブックトークに生かすことを意識しながら学習に取り組めた。

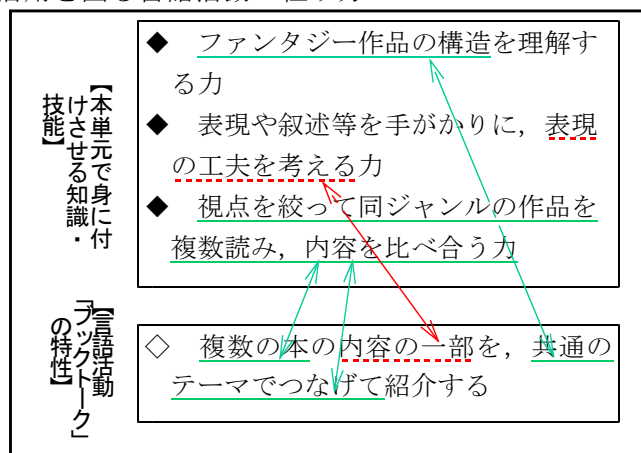


図9 本単元で身に付けさせる知識・技能と言語活動の特性との関連

イ 学習のねらいを効果的に達成する学習過程の在り方

第3～5時で、中核教材「白いぼうし」の読みを通してファンタジーの構造と作者の表現の工夫をとらえさせ、仮のブックトーク原稿づくりを行わせた。そこで身に付けた力を言語活動「グループ・ブックトーク」で活用させる前に、第6時を「まとめる過程」として設定し、共通補助教材「つり橋わたれ」の分析と、ブックトーク原稿づくりを行わせた(表8)。

子どもたちは、「つり橋わたれ」の教師の範読を聞いた後、もう一度自分で読み直ししながら登場人物を整理したり、不思議な世界のきっかけなどを探してサイドラインを引いたり、ファンタジーの構造をシートに書き出したりするなど、「白いぼうし」の読みを補助教材の読みでも生かそうとしていた。

また、グループや全体で調べた内容を確認し合いながら自分の読みを確かめたり、修正したりする姿も見られた。さらに、ブックトーク原稿には、聞き手に「男の子の正体」や、男の子に出会ったことで「主人公ができるようになったこと」へ注目させることを意図した文章を書くことができていた。

表8 習得した知識・技能の活用を試行する「まとめる」学習過程

過程	時	主 な 学 習 活 動
調べる・深める	5/10	不思議な世界の入り口と出口を調べ、白いぼうしのブックトーク原こうを書こう。
	6/10	他のファンタジー作品を読んで、「不思議なできごと」「きっかけ」「作者の表現の工夫」をさがそう。 1 「つり橋わたれ」を読み、「白いぼうし」と比べながら「不思議なできごと」「きっかけ」「作者の表現の工夫」を調べる。 ① 教師の範読を聞く。 ② これまで学習したファンタジーの視点に沿って、作品を整理する。 【不思議なできごと】かすりのきものをきた男の子が急にあらわれて、トッコが追いかけられているうちにいなくなってしまったこと。 【きっかけ】トッコが山びこをよんだこと 【作者の工夫】山びこが男の子の正体では、と思わせるような表現がある。 2 二つの作品の共通点や相違点について話し合う。 3 「白いぼうし」のブックトーク原稿を参考にしながら、「つり橋わたれ」のブックトーク原稿をつくる。
生かす	7・8/10	グループ・ブックトークのじゅんぴをしよう。
振り返る	9・10/10	ファンタジーをテーマにグループ・ブックトークをしよう。

ウ 子どもの習得と活用をつなぐワークシートの工夫

子どもたちは、単元を通して、「白いぼうし」、「つり橋わたれ」、「自分で選んだファンタジー作品」の三つの作品を読む。それらを「ファンタジーの構造」という共通の視点で分析、ブックトーク原稿にまとめていく活動において、内容や構成が共通したワークシートを使用させた(図10)。子どもたちは、これらのワークシートを使って作品の分析やブックトーク原稿づくりを行うことで学習内容や学習活動に慣れることができ、そのことで自分の活動に見通しをもてるようになったり、内容の確かめや読みにつまずいた際の振り返りを自分で行ったりできた。第7・8時のブックトーク本番用の原稿は、授業に参加した子ども29人中、26人が時間内に書き上げ、そうでなかった三人も次時までには書き上げることができた。

同じ視点で作品分析

↑第5時「白いぼうし」用ワークシート

↑第6時「つり橋わたれ」用ワークシート

↑第7・8時「自分で選んだファンタジー作品」用ワークシート

同じ構成で三回の原稿作り

図10 第5～8時までの子どものワークシート

(5) 検証授業Ⅰの成果と課題

ア 成果

- (ア) 「基礎的・基本的な知識・技能系統表」と「言語活動系統表」を基に、単元を貫く言語活動をブックトークに設定したことで、子どもたちは身に付ける力をブックトークで活用する必要性を理解し、学習の目的意識をもちながら学習に取り組めた。
- (イ) 単元プランニングシートを作成することで、教師は、「子どもの実態」「基礎的・基本的な知識・技能」「言語活動」「教材」の四つを関連付けてとらえることができ、教材の読みで習得した力をブックトークを通して有効に活用させることができた。
- (ウ) 学習過程の工夫を図り、「白いぼうし」を読む活動と自分で選んだ作品をブックトークで発表する活動との間に補助教材「つり橋わたれ」の分析と原稿作りの活動を入れたこと、ワークシートの工夫を図り、教材文の分析やまとめをブックトークと結びつける形で行わせたことで、身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能の振り返りと繰り返しの活用がなされ、知識・技能の習得がより深まったと考える。

- (エ) 第9・10時のブックトーク本番に向けて、子どもたち一人一人がファンタジーの構造や表現の工夫について、聞き手の読書意欲を喚起させる書き方を工夫しながら紹介文を書き上げることができた。本番では、発表と発表をつなぐ班ごとのあいさつや総合司会のコメントも工夫させたことで、話し手と聞き手が一緒に楽しめるブックトークとなった。

単元末の子どもの感想から、知識・技能が言語活動での活用を通して習得されたことを子どもが自覚した姿がうかがえ、「読書生活への活用」「作品分析・解釈への活用」につながる意欲や態度を培うことができたと考える（表9-1・2）。

イ 課題

- (ア) 本単元の学習までに身に付けてきた基礎的・基本的な知識・技能を意識させながらそれらの活用を図ったり、それらを土台にして新しい知識・技能を習得する必要性を感じさせたりする場の設定が十分でなかった。習得と活用に対する子どもの意欲を喚起したり活動を方向付けたりするような学習活動を設定したり、意図的な発問や指示を行ったりすることで、子どもの知識・技能の習得と活用を促進する必要があると考える。さらに、「自己表現への活用」へつながる単元指導の在り方について検証する必要がある。検証授業Ⅱでは、「自己表現への活用」を図る言語活動の工夫、知識・技能の習得と活用を促す具体的な手だて（特に発問・指示）の工夫について検証を行う。

表9-1 子どもの評価シートから、「この学習でできるようになったこと」

分類	感想内容（自由記述をまとめたもの）	人
教材文の読みについて	・ ファンタジーの仕組みやおもしろさが分かるようになった。	10
	・ あらすじを考えながら作品を読めるようになった。	1
	・ 物語には起承転結あることが分かった。	1
言語活動「ブックトーク」について	・ ブックトークができるようになった。	13
	・ 本の内容やおもしろさを説明することができるようになった。	5
	・ 大きな声で恥ずかしがらずに発表ができるようになった。	4

表9-2 子どもの評価シートから、「この学習を生かしてこれからやってみたいこと」

活用の型	感想内容（自由記述をまとめたもの）	人
読書生活への活用	・ 他のテーマでもブックトークをしてみたい。	9
	・ もっといろいろなファンタジーを読みたい。	8
	・ 本をたくさん読みたい。	5
作品分析・解釈への活用	・ 隣のクラスにもファンタジーのことを教えたい。	2
	・ ファンタジーを詳しく説明できるようになりたい。	1
自己表現への活用	・ ファンタジーを書いてみたい。	2



写真 グループ・ブックトークの様子

5 検証授業Ⅱにおける検証

(1) 検証授業Ⅱの単元名及び実施学年等

単 元 名	生き方や考え方をとらえよう(教材「わらぐつの中の神様」光村5年下 他)
実施学年	薩摩川内市立永利小学校 第5学年い組 男子19人女子16人 計35人
実施時期	平成22年11月上旬

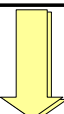
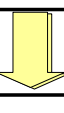
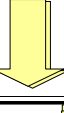
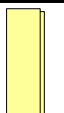
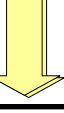
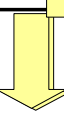
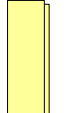
(2) 検証授業Ⅱのねらい

- ア 習得と活用を促す具体的な発問・指示について検証する。
 イ 文学的な文章の指導における、自己表現への活用を図る言語活動について検証する。

(3) 検証授業Ⅱの概要(単元プランニングシート)

第5学年 単元名		生き方や考え方をとらえよう	プランニングシート
1 領域、指導事項			
領域	指導事項		
A 話すこと・聞くこと B 書くこと C 読むこと ・伝統的な言語文化と国語の特質	エ 文学的な文章の解釈 ・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述に オ 自分や自分の考えの形成及び交流 ・本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めた		
2 身に付けさせる力と活用の型			
○これまでの学習で子どもが身に付けてきた力		○活用の型	
① 題名や鍵になる言葉に込められた登場人物の思いを叙述を根拠に考える力 ② 対比を通して、場面設定や人物の境遇・状況を考える力 ③ 主人公の体験と自分の体験を重ね合わせて思いや考えを書き、交流して比べる力		ア 読書生活への活用 イ 作品分析・解釈へ ウ 自己表現への活用	
◎この単元で身に付けさせる力			
④ 会話や行動描写から登場人物の生き方や考え方をとらえ、作者の思いについて交流する力 ⑤ 文章構成や優れた文章表現の効果を考え、自分の表現に生かす力			
3 設定した言語活動		4 使用教材・教具、選択した理由	
単元を貫く言語活動	創作文	中核教材	わらぐつの中の神様
◆特性	経験したことや想像したことについて、 伝えたいことが相手に伝わるように構成 や表現を工夫して書く。	本作品は、題名に作者の伝えたいメッセージが 象徴されており、それは、登場人物の生き方や考 え方そのものである。読み手が題名を意識しな がら、会話や叙述を通して人物の生き方や考 える方を読むことを通して、作者のメッセージを考 えるのに適した教材である。 また、本作品は「現在→過去→現在」という昔 語りを、前後で包み込んで構成されている。そ のことにより、長編の読み物でありながら起承 転結が明確にでき、それぞれが生き対比表現に 細い描写、方言などの表現の工夫も随所によ り、子どもたちの表現を通して、それらによ り理解し、自分の表現に効果的に生かすこ とが考えられる。	
◆活動内容	これまでの生活における人との交流を通して 学んだ「大切にしたい生き方・考え方」につい て、構成や表現を工夫しながら「○○の中の神 様ストーリー」という題名で書く。	補助教材 これまで学習した物語文 教師自作のモデル文	
◆留意点等	・中核教材を通して「生き方や考え方につ いて作者のメッセージ」ととらえた経験を 生かし、自分の実体験から「自分が大切に している生き方や考え方」について文章化 させる。 ・中核教材の「現在→過去→現在」という 文章構成の効果を考えさせながら文章化さ せる。また、対比による強調表現、方言な ども必要に応じて取り入れさせる。	「つなぐ」過程において、作品の題名と内容の つながりを考えさせたり、「生かす」過程におい て表現技法の効果に気付かせたりするために、こ れまでに学んできた物語教材を準備する。 また、「まとめる」過程において、子どもに創 作文のテーマや文章構成、表現技法の効果を考え させるための材料として、教師が自作したモデル 文を準備する。	
これまで経験してきた関連する言語活動	B 書くことー第3学年及び第4学年 ア 身近なこと、想像したことなどを基に、詩をつく ったり、物語を書いたりすること ○お話づくり C 読むことー第3学年及び第4学年 ア 物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 ○続き話づくり	教具等 ワークシート・支援シート 作品の設定や、作品を分析したことを視覚的に 分かりやすく整理するために、ワークシートを使 用する。また、創作文を書く際には、個別の支援 のためのヒントシートや推敲シートを準備したい。	

(4) 指導計画(全9時間)

通時	主な学習活動	習得	活用	活動の関連	教師の支援
つなぐ	1 題名から内容を想像し、最初の感想を書こう。 ○ 題名から想像したことを、既習の文学的文章教材と比較しながら交流する。 ○ 「わらぐつの中の神様」の範読を聞き、視点に沿って初発の感想を書く。		① ②		○ 教材文を読む意欲をもたせるために、これまでの文学的文章の題名と内容を振り返らせ、本教材の題名と作者の伝えたいこととの関連を予想させる。 ○ 学習の内容を意識付けさせるために、作者のメッセージ、それにつながる人物の生き方や考え方、表現技法など初発の感想の視点を与える。
	2 単元の学習計画を立てよう。 ○ 初発の感想を交流する。 ○ 教師のモデル実演を参考にしながら、単元の学習課題を設定する。 単元学習課題 生き方や考え方をとらえ、自分だけの「○○の中の神様ストーリー」を書こう。 ○ 単元の学習計画を立てる。	④ ⑤			○ 単元の学習内容を焦点化させるために、前時の初発の感想を分類して提示する。 ○ 単元の学習課題を意識付けさせるために、大切にしたい生き方や考え方について教師の口頭によるモデル演示を行う。 ○ 単元を通して目的意識を持続させるために、単元の学習課題に迫る連続した活動の流れになるよう計画を立てさせる。
調べる・深める	3 「わらぐつの中の神様」の設定や出来事をまとめよう。 ○ 話の構造やあらすじを一覧表にまとめる。 ・構成・登場人物(中心人物、対人物) ・時、場所 ・場面ごとの重要な出来事		① ② ③		○ 4～6時の学習課題に取り組む際の前準備として、作品の設定やあらすじをとらえさせる。 ○ 物語を構造的にとらえさせるために、ワークシートを準備する。 ○ 一人での作業が停滞しないよう、必要に応じてペアやグループで考えを交流させる。
	4 おみつさんと大工さんの生き方や考え方を探ろう。 ○ 対比表現を着目しながらおみつさんの生き方や考え方を調べる。 ・わらぐつを作る様子から ・作り上げたわらぐつから ○ おみつさんに語りかける言葉から、大工さんの生き方や考え方を調べる。 ○ 二人の共通点を交流し、まとめる。	④ ⑤			○ これまで身に付けてきた力を意識させるために、既習教材での学習を振り返らせ、登場人物の気持ちを想像するときは会話や行動に着目すればよいことを確認させる。さらに、「心情」と「生き方や考え方」の違いを押さえ、場面全体から生き方や考え方を探させる。 ○ 対比による強調に気付かせるために、対比のない文と比べさせ、その違いを考えさせる。
	5 おばあちゃんが、なぜマサエに自分の話をしたのかを探り、神様の意味を考えよう。 ○ 一場面と三場面を対比させながらマサエの変容を調べる。「～なマサエに、～ということ」をわかってほしいから」の例文をもとにおばあちゃんの思いを考え、交流する。 ○ 「神様」の意味を交流する。	④ ⑤			○ 作者の思いに迫らせるために、おばあちゃんがマサエに昔話をした理由を考えさせる。その際、第一場面でのマサエのわらぐつや母へ対する言葉と、第三場面でのマサエの言動を対比させながらマサエの変容をとらえさせることで、おばあちゃんが昔話をした理由、神様の意味を考えさせる。
まとめる	6 読み手を引き付ける、作者の「しかけ」の効果を考えよう。 ○ 「現在→過去→現在」の文章構成の効果について考えながら、モデル文を再構成する。 ○ 創作文を書くときの視点を整理する。	⑤	④ ⑤		○ 構成の工夫が書き手の思いをより効果的に伝えていることを実感させるために、教材文の構成の効果を考えさせながら、教師のモデル文を「現在→過去→現在」に再構成させる。 ○ 次時の創作文を書く活動を意識付けさせるために、書く際の視点について考えさせる。
生かす	7 自分だけの「○○の中の神様ストーリー」を書こう。 ○ モデル文を参考に、視点を確認する。 ① 全員が取り組む視点 ・大切にしている生き方や考え方 ・現在→過去→現在の構成 ② できれば取り組みたい視点 ・対比・方言(会話)・比喩 ・これまで学習してきた表現技法 ○ 構想表を作り、作文の骨組みを作る。 ○ 創作文を書く。		③ ④ ⑤		○ 書く材料を整理して作業させるために、モデル文や構成表を準備する。 ○ 教材文の読みが自分の表現に生かせるように、書く際の視点を確認させる。 ○ 書くことが苦手な子どもに対しては、個別指導、色分けシートや書き出しヒントカードの準備、友だちの書いた表現の紹介を行い、参考にさせる。 ○ よりよい文章を書くとする意欲や書くことへの達成感を高めさせるように、机間指導による声かけや赤ペンによる賞賛を行った後、推敲シート等を準備したりする。
	8 作品を交流し、学習のまとめをしよう。 ○ 完成した文を交流する。 ・内容への感想が入っているか相互評価 ○ 学習のまとめをする。	③ ④ ⑤			○ 達成感を味わわせるために、内容面ではなく、表現面を重視する。技術面については明確な視点を示した相互評価を行わせる。 ○ 学習の振り返りや、これからの言語課題を生活に活用するために、自己評価の観点や書き方を工夫させる。
振り返る	9				

(5) 検証の実際

本単元で習得させる知識・技能と、単元を貫く言語活動「創作文」の特性との関連は、図11のとおりである。

子どもたちは、第5時までに登場人物の会話や行動などの描写から「大切なのは外見より内面である」「人を思いやる心が大切である」という生き方や考え方を読み、それらを題名の「神様」という言葉と関連付けながら作者のメッセージとしてとらえてきた。また、対比表現、方言、比喩などが作者の伝えたいことを効果的に伝えていることにも気付くことができた。さらに、現在→過去→現在の文章構成がこの作品の特徴の一つであることにも気付いている。これらの学習を生かして創作文を書かせ交流させることで、「大切にしたい生き方や考え方」について自分の考えを深める力、文章構成や優れた表現を活用し自己表現する力を身に付けさせたい。

ア 習得と活用を促す具体的な発問・指示の工夫（6／9時間）

第6時は「まとめる」過程として位置付けた。モデル作文の文章構成を見直す活動を通して、子どもたちにこれまでの学習で習得してきた知識・技能を振り返らせ、次時以降の創作文づくりに見通しをもたせるのがねらいである。

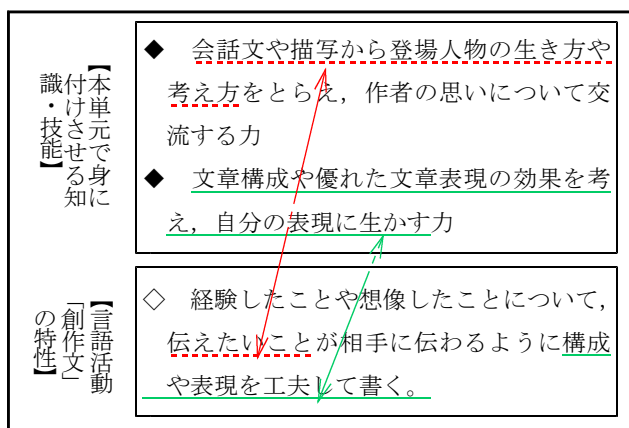


図11 本単元で習得させる知識・技能と言語活動の特性との関連

過程	主な学習活動	○発問・指示のねらい	具体的な発問・指示	C子どもの反応
つなぐ	1 教師のモデル文について、これまで学習したことがどのように生かされているか考える。 ↓提示モデル文	① これまでの学習を振り返り、本時以降のこれからの学習についての見通しをもたせる。【習得・活用】 指示1：「わらぐつや雪げたの中の神様」とは、外見より中身が大切であることや、相手のことを思いやる気持ちであるということでした。この学習を生かして、みなさんにも、思い出の品や言葉、それらにこめられたよりよい生き方や考え方について自分だけのストーリーを作ることを確認しました。書く材料になりそうなものは見つけられましたか？実はみなさんより前に先生も作文を準備しました。読みましょう。		
	2 単元で学習してきた表現技法について振り返る。		② モデル文について、教材文を読んだ視点での解釈を求める。【活用】 発問1：この作文に、「○○の中の神様」という題名を付けるとすればどんな言葉が入るでしょうか。 C1：赤いトレーナーの中の神様 C2：先輩の中の神様 ③ 構成や表現についてこれまで学習の想起を促す。【習得】 発問2：内容はもちろん、表現についてもこれまでの学習を生かした文章を書きたいと思います。この単元で学習してきた表現の方法にはどんなものがありましたか。 C1：対比 C2：現在→過去→現在の書き方 C3：方言 C4：比喩	

見通す	3 学習課題を確かめる。 読み手を引き付ける作者の「しかけ」の効果について考えよう。	④ 本時の学習の見通しをもたせ、学習課題を確認させる。 指示2：作者が使ったこれらのしかけは、読み手にどんな効果やききめを与えるのでしょうか。これから書く作文にぜひ取り入れられるようにこれらのしかけの効果について考えましょう。今日は、特に「現在→過去→現在の書き方」についてみんなで考えることにします。
調べる・深める	4 教材文の「現在→過去（昔話風）→現在」の構成の効果について考える。 【子どもの様子】 教材文の「現在→過去→現在」の文章構成の効果をそれぞれの言葉で考える姿が見られた。 5 教材文と比較しながらモデル文の構成を確認する。 【子どもの様子】 主人公の現在の学年を理解できていない子どもがいたので、①段落から順に、時と出来事を確認させていった。子どもたちは、時間を表す言葉に着目しながらそれぞれの段落における主人公の学年を押さえることで、文章構成を確認できた。 6 教師のモデル文を、「現在→過去→現在」の構成に変える。	⑤ 教材文の現在→過去→現在の構成の効果について考えさせる。【習得】 発問3：「わらぐつの中の神様」は、一場面と三場面が現在で、二場面が過去の話になっていましたね。特に二場面は、昔話風の語り口になっていますね。 この作者の仕掛けがわたしたち読み手にどんな効果をあたえていますか。 C1：これまで読んだことのない書き方です。 C2：過去と現在をタイムスリップしたような感じになる。 C3：マサエの成長がわかる。 C4：話の世界が違う感じがする。 ※ワークシートよりその他の意見 ・ 現在と過去があることで、中心人物が二人になる。 ・ 現在と過去がつながっておもしろく読める。 ・ 現在のスキー靴の話があったから、過去のわらぐつの話がある。 ・ 現在がないとおみつさんの正体がおばあちゃんだと分らない。 ・ 過去と現在を比べることができる。 ・ 現在があることで作者の伝えたいことがよく伝わってくる。 ⑥ モデル文の構成への気付きと、その根拠となる叙述を押さえさせる。【活用】 指示3：「現在→過去→現在」の書き方は、読者にこのようなおもしろさを与える効果があるのですね。それでは先生の作文はどうなっているのでしょうか。 発問4：先生の準備した作文は「現在→過去→現在」の書き方になっていますか。 C：なっていません 発問5：それでは、どこまでが過去で、どこからが現在ですか。段落の番号で答えましょう。どうしてそう思いましたか。 C：（⑤段落と⑥段落が多かった。） 指示4：この主人公は今何年生なのですか。①段落から確かめていきましょう。 C：（各段落ごとに主人公の学年を示す叙述を指摘。その結果、現在主人公は6年生であることを全体で確認） 発問6：それでは、もう一度確認します。どこからが現在ですか。 C：⑥段落からです。 ⑦ 「現在→過去→現在」の効果を考えながら、モデル文の構成修正を求める。【活用】 指示5：先ほど話し合った効果を考えながら、ワークシートを使って、モデル文を「現在→過去→現在」に変えましょう。 直すときの考え方は二つあります。一つは、現在の部分の三つの文を移動させる考え方、もう一つは、自分で考えた文章を付け加える考え方です。他にもあれば工夫しましょう。
生かす		⑧ 「現在→過去→現在」の構成の良さの確認を求める。【習得】 指示6：できあがったものをグループで確認し合いましょう。自分と違うところに注目して、どうしてそうしたのかを交流しましょう。 ※グループ交流の様子  

7 できあがったものを
交流し、構成の効果を
確認する。



【子どもの様子】

3文からなるモデル
文⑥段落を、子どもた
ちは様々な発想で操作
し、現在→過去→現在
の文章構成に直すこと
ができた。現在部分の
3文を前後に配置する
だけでなく、3文の順
序を変えたり、加筆修
正を加えて文のつなが
りを工夫したりする姿も
見られた。

指示7：できあがったものを発表しましょう。

↓ 子どものワークシートより

過去	現在	過去	現在
ふの 心 手 と し て 欠 か せ な い 存 在 に な っ て わ た し は	は、 今 わ た し の 使 っ て い る お も い な い ト レ ー ナ ー は、 一 番 の 宝 物 で す。 こ う い う こ と が あ っ た か ら で す。	ふの 心 手 と し て 欠 か せ な い 存 在 に な っ て わ た し は	は、 今 わ た し の 使 っ て い る お も い な い ト レ ー ナ ー は、 一 番 の 宝 物 で す。 こ う い う こ と が あ っ た か ら で す。

↑ 現在部分の一文目を前に移動させ、新た
に文を挿入して過去部分とつないだもの

↑ 元の文章はそのまま、最初に全く新しい
文を加筆して、「現在→過去→現在」の構成
にしたもの

8 文章構成の効果を確
かめながら、教材文を
振り返る。

⑨ 学習した構成の効果を教材文で確かめさせ、実感させる。【習得】

指示8：それでは、「現在→過去→現在」の書き方が読み手に与える効果を考え
ながら、「わらぐつの中の神様」をもう一度読みましょう。

9 本時の学習を振り返
り、次時の学習の見通
しをもつ。

【子どもの様子】

構成の違いで同じ内
容の文章でも読み手に
与えるおもしろさが変
わり、思いを効果的に
伝えられることに気付
く姿が見られた。この
学習を生かして創作文
づくりへの意欲を高め
る姿が見られた。

⑨ 本時の学習の成果を確認させ、次時の活動への見通しを求める。【習得・活用】

発問7：今日みんなで考えた効果を考えながら「現在→過去→現在」の書き方を
取り入れれば、今までと違う読み手を引き付ける作文が書けそうですか。

C：書けそうです。

指示9：次の時間は、いよいよ作文づくりになります。みなさんには、「現在→
過去→現」在の書き方に挑戦してもらいます。対比や方言、比喩などこれまで学
習した表現も入れてみていいですね。今日の学習の反省をワークシートに書き
込みましょう。

※授業後の子どもの感想より

- ・ 自分の「〇〇の中の神様」ストーリーでも、現在→過去→現在で書いてみたい。
- ・ 現在→過去→現在の構成はすごい。
- ・ 対比や現在→過去→現在の書き方のよさが分った。

イ 文学的な文章の指導における、自己表現への活用を図る言語活動の工夫（7・8／9時間）

第6時までの学習を経て、子どもたちは自分の体験を基に、「現在→過去→現在」の構成
で作文用紙2枚の創作文を書き上げた。子どもたちが事前に書きたいことをぼほイメージで
きていたことや第6時のモデル文の書き方を参考にさせたこともあり、子どもたちの書く活
動は予想以上にスムーズに行えた。創作文のテーマは当初「大切にしたい生き方や考え方」
で統一していたが、全員がそのテーマで書くことは難しく、個別に修正を行った。最終的な
テーマとその人数は、「大切にしたい生き方や考え方」8人、「思い出の品とそれを大切に
しているわけ」15人、「大切な思い出」7人、「自分を励ましてくれた言葉」5人であった。

子どもたちは、「わらぐつの中の神様」での読みを生かし、効果的な構成や表現を意識し
ながら思いを伝える文章を書き（次頁図12）、友だちと交流することで、自分の考えを深めたり、
これからの効果的な自己表現への意欲をもったりすることができた。



..... 生き方や考え方 表現技法【対比】

図12 子どもの書き上げた創作文

(6) 検証授業Ⅱの成果と課題

ア 成果

- (7) 基礎的・基本的な知識・技能系統表に基づき、文章構成や表現技法のよさを、読む際や書く際の言語技術として系統的に指導することができた。単元末の子どもの感想からも、文学的な文章の指導を通して、基礎的・基本的な知識・技能の習得を自覚したり、学習したことをこれからの自分の読みや表現活動へ生かしていこうとする意欲をもつことができたことが分かる。また、自分の生き方や考え方をよりよくしていきたいと感想に書いた子どもがいたことも興味深い（表10-1、2 図13）。

表10-1 子どもの評価シートから、「この学習でできるようになったこと」

分類	感想内容（自由記述をまとめたもの）	人
教材文の読みについて	- 対比、比喻、方言などの効果が分かった。 - 現在→過去→現在の構成の効果が分かった。 - 長い文の内容が分かるようになった。 - 場面の様子の読み方が分かった。 - 自分の生き方・考え方を直視した。（ものを大切に 人を思いやる 等）	12 5 1 1 7
言語活動「創作文」について	- 現在→過去→現在の構成のよさを考えて文が書けるようになった。 - 対比、比喻などを使って文章が書けた。 - 作文を最後まで書き上げられた。	8 3 3

表10-2 子どもの評価シートから、「この学習を生かしてこれからやってみたいこと」

活用の型	感想内容（自由記述をまとめたもの）	人
読書生活への活用	長い文章を読んでみたい。	1
作品分析・解釈への活用	人物の考え方や変化に気をつけて読んでみたい。	1
自己表現への活用	- 現在→過去→現在の構成をこれからの文章にも生かしてみたい。 - 対比、比喻などの表現を使って文章を書いてみたい。 - 物語を書くことに挑戦したい。 - 学習を生かして日記、作文をわかりやすく書きたい。	14 11 2 1
※これからの生き方・考え方	- ものや中身を大切にしたい。 - 何にでも一生懸命頑張りたい。 - 人が喜ぶことをしたい 等	6

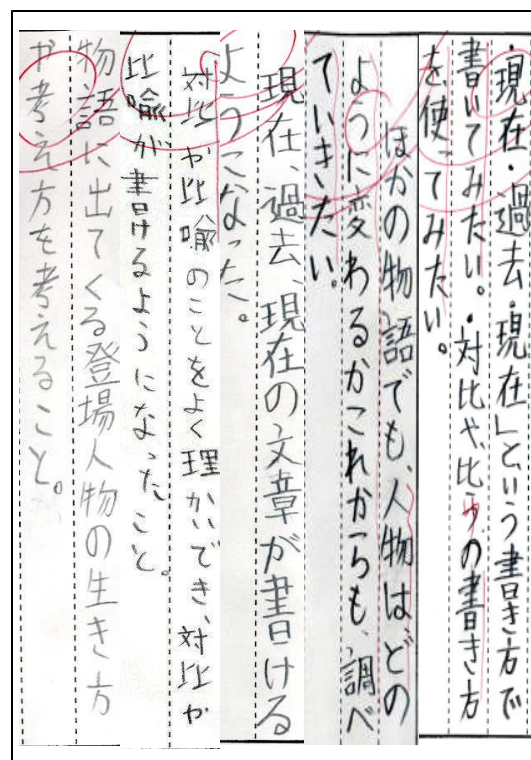


図13 実際の子どもの感想

- (i) 「生き方や考え方」や「現在→過去→現在の構成」、「対比などの表現技法」について、

これまでの学習を確認させたり、それらを活用して課題に取り組ませたりするような発問や指示を意図的に行うことで、子どもの思考活動や表現活動の目的を明確にするとともに、知識・技能の習得と活用を意識した学習に取り組ませることができた。

- (ウ) 「現在→過去→現在」の構成のよさを中核教材を基に考えさせた上で、モデル文の構成を修正させることで、構成の効果を実感しながら、自分の創作文に「現在→過去→現在」の構成を生かそうとする意欲を子どもにもたせることができたと考える。また、そのことが子どもが改めて中核教材を味わわせるための視点にもなった。

イ 課題

- (ア) 教材文から大切にしたい生き方や考え方をつかむことはできたが、創作文づくりにあたり自分の生活から生き方や考え方を見つめ直すことは、子どもによっては大変難しい内容だったようである。そこで、一人一人と話し合いながら個別にテーマの修正を行わせた。

単元を貫く言語活動の具体的な内容について、子どもの発達の段階や実態に応じてより適したものを設定する必要があると考える。

- (イ) 創作文について、構成や表現技法の工夫を通して思いがより相手に伝わる文章を書けたのか、相互に吟味・評価し合う時間が十分に設定できなかった。

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

- (1) 教師と子どもの実態調査から、文学的な文章の指導における基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用に関する課題をつかむことで、子どもが知識・技能を活用する三つの姿「読書生活への活用」「作品分析・解釈への活用」「自己表現への活用」を明らかにすることができた。

また、習得した知識・技能を活用する国語科授業づくりのための五つの視点「基礎的・基本的な知識・技能の内容と系統の具体化」「基礎的・基本的な知識・技能と関連する言語活動の具体化」「基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る単元の具体化」「基礎的・基本的な知識・技能の効果的な習得と活用を図る学習過程の工夫」「習得と活用を図る一単位時間の指導における具体的手だて」についてその方向性を明らかにすることができた。

- (2) 学習指導要領や参考文献などから、文学的な文章の指導において系統的・段階的に指導する基礎的・基本的な知識・技能の具体的内容と、言語活動例の特性、学年段階に沿った具体的内容を系統表にまとめたことで、基礎的・基本的な知識・技能と言語活動を関連付けてとらえることができるようになり、知識・技能を有効に活用する言語活動を絞り込むことができた。

- (3) 単元プランニングシートを考案したことで、「子どもの実態」「知識・技能」「言語活動」「教材」の四つの関連をとらえながら、単元の指導に当たっての基本的な考え方を明確にできた。

また、単元全体を見通しながら習得と活用を促進するような学習課題の設定や言語活動の位置付けを工夫した学習過程を工夫した。そのことで、子どもが「単元を貫く言語活動」を行う目的意識を明確にしながら教材を読み、その読みを生かして言語活動を行い、知識・技能の習得を実感する姿が見られたことから、手だての有効性を明らかにすることができた。

- (4) 知識・技能の習得と活用を促進するワークシートや発問・指示の工夫を通して、子どもがこれまで習得してきた知識・技能を意識しながらそれらの活用に取り組む姿、学習したことを自分のこれからの言語生活に活用していこうとする意欲が見られたことから、手だての有効性を明らかにすることができた。

2 今後の課題

- (1) 各学年、各単元における言語活動を通した基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る具体的指導の成果と課題を实践を通して明らかにしていく必要がある。それを基に、系統表の修正を行い、更なる改善を図る必要がある。

- (2) 子どもの知識・技能の習得と活用を図るための、各学年に応じた系統的・段階的な指導の在り方を研究する必要がある。

【参考文献】

- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 国語編』 平成20年8月
- 田近洵一・井上尚美編 『国語教育指導用語辞典』 2009 教育出版
- 鶴田清司著 『文学教材の読解主義を超える』 1996 明治図書
- 横浜市小学校国語教育研究会著
『豊かな言語活動を図る単元の構想』 2010 東洋館出版
- 横浜市小学校国語教育研究会著
『豊かな言語活動で確かな国語力を！』 2008 東洋館出版
- 白石範孝編著 『読みの力を育てる用語』 2009 東洋館出版
- 須田実編著 『国語力をつける発問づくり小学校5・6年』 2005 明治図書
- 全国国語授業研究会・
二瓶弘行・青木伸生編著 『活用力を育てる文学の授業』 2009 東洋館出版

【引用文献】

- 柴田義松・阿部昇・鶴田清司編著
『あたらしい国語科指導法改訂版』 2008 学文社

長期研修者〔 芝 智史 〕
担 当 所 員〔 小薄 敏幸 〕

【研究の概要】

本研究は、習得した知識・技能を活用する子どもの姿を設定し、言語活動の工夫を通してその具現化を図る国語科指導の在り方を研究したものである。

具体的には、まず習得させる知識・技能の具体的内容や系統、言語活動の特性を明確にした。そしてそれらを基に、「子どもの実態」「知識・技能」「教材」「単元のねらいに迫る言語活動」の四つの要素の関連のさせ方、活用を図る単元の学習計画の作り方や指導の手だてについて工夫を行い、授業で検証した。

その結果、これらの工夫が、子どもの「習得した知識・技能を活用する力」を育成することに有効であることが分かった。

【担当者の所見】

本研究は、文学的な文章指導における言語活動の工夫を中核とし、習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用する力を育成する国語科学習指導の在り方を追究したものである。

本研究の特色は、児童の実態や指導の反省等に基づき、文学的な文章の学習で児童が習得すべき基礎的・基本的な知識・技能と、それらを活用する児童の姿を明らかにし、その具現化を図る言語活動の工夫を行ったところにある。

具体的には、基礎的・基本的な知識・技能系統表や言語活動系統表を作成するとともに、「児童の実態」「知識・技能」「教材」「単元のねらいに迫る言語活動」の四つの要素の関連を密接に図るためのプランニングシートを考案し、学習過程に反映させたこと、習得と活用を促すワークシートや発問・指示を工夫したことなどが、習得した知識・技能を活用する力をはぐくむことに効果的であり、文学的な文章指導の改善に示唆を与えるものである。

新学習指導要領において、「基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付ける」ことが求められる中で、時宜を得た研究であるといえる。今後、本研究の成果を他学年での指導にも生かし、系統性を踏まえた指導を充実させることを期待したい。